

令和8年度第1回瑞穂町地域公共交通会議

1. 開催概要

日 時：令和8年6月24日（水）14：30～15：30

会 場：瑞穂町役場2階会議室2－1、2－2

委員：

No	所属	役職	委員氏名	出席状況
1	瑞穂町	副町長	小作 正人 ★	出席
2	日本大学 理工学部 土木工学科	教授	大沢 昌玄 ☆	出席
3	瑞穂町寿クラブ連合会	会長	小野 芳久	出席
4	瑞穂町福祉作業所さくら	施設長	戸村 仁郎	出席
5	公募（町内在住）		小暮 彰	出席
6	公募（町内在住）		徳永 道子	出席
7	立川バス株式会社	運輸部計画課長	佐藤 祐浩	出席
8	西武バス株式会社	計画部計画課長	秦野 凌	出席
9	東京都交通局	自動車部路線計画調整担当課長	戸澤 光一	出席
10	横川観光株式会社	代表取締役社長	山口 和彦	出席
11	武州交通興業株式会社	事業部部长	濱田 興紀	出席
12	一般社団法人東京バス協会	乗合業務部長	富樫 秀樹	出席
13	東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社	企画部長	疋田 力	欠席（代理：塚本氏）（Web）
14	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	首席運輸企画専門官（総務企画担当）	内山 嘉津夫	欠席（代理：吉川氏）（Web）
15	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	首席運輸企画専門官（輸送担当）	川村 英輝	欠席（代理：戸澤氏）
16	立川バス労働組合	執行委員長	土岐 雅人	出席
17	国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所	計画課長	中嶋 豊	欠席（代理：梶谷氏）
18	東京都 都市整備局	都市基盤部交通企画課 地域公共交通担当課長	吉川 昌孝	欠席（代理：織田氏）（Web）
19	東京都 西多摩建設事務所	管理課長	赤山 貴大	欠席（代理：藤正氏）（Web）
20	福生警察署	交通課長	菅原 雄二	欠席（代理：秋山氏）

★：会長 ☆：副会長

傍聴人：8人

次 第

- 1 開会
- 2 委員交代報告
- 3 前回会議以降の動向
- 4 議事

報告事項

- (1) 瑞穂町コミュニティバス、及びデマンド交通実証実験運行状況の報告について
- (2) 瑞穂町デマンド交通利用者アンケート調査結果の報告について

協議事項

- (3) 瑞穂町デマンド交通の今後の運行方針について
- (4) 自動運転移動サービス実装事業の効果検証について

- 5 その他
- 6 閉会

2. 議事録

委員交代報告

- ・新たに戸澤委員（東京都交通局）、内山委員、川村委員（国土交通省関東運輸局東京運輸支局）、赤山委員（東京都西多摩建設事務所）が就任したことが報告された。

前回会議以降の動向

- ・瑞穂町コミュニティバスの再編及び自動運転での運行開始、デジタル定期券・回数券の導入が報告された。
- ・瑞穂町デマンド交通のキャンペーン第3弾として、利用対象者への「満65歳以上で運転免許証を返納した方」「未就学児」の追加、町内のコンビニ6店舗の停留所への追加が報告された。
- ・瑞穂町地域公共交通計画の策定が報告された。

議事

(1) 瑞穂町コミュニティバス、及びデマンド交通実証実験運行状況の報告について

- ・事務局より、瑞穂町コミュニティバスの運行状況について報告された。
- ・事務局より、瑞穂町デマンド交通の運行状況について報告された。
- ・この報告に関する質問・意見はなかった。

(2) 瑞穂町デマンド交通利用者アンケート調査結果の報告について

- ・事務局より、瑞穂町デマンド交通利用者アンケートの調査結果について報告を行った。

【会長】

この件について、ご意見・ご質問はないだろうか。

【委員】

30ページの停留所追加要望について、知人がある場所に通うということになり、登録のお手伝いをしたが、その目的地から停留所まで300m以上の距離があり、自分の足では歩けないということで断念し、今のところ使っていないようだ。運行開始から10箇所くらいは追加していただいたが、できる限り停留所を増やしていただくことが、今後の利用促進に繋がるのではないかと思いますので、要望として取り入れていただくようお願いしたい。

【事務局】

ご意見を賜ったので、運行事業者、交通事業者と協議をし、可能であればできるところから順次検討したい。

【委員】

非常にアンケートの回収率が高く、町民の関心の高さが伺えるが、実効性がある形に是非してほしい。その中で、停留所の追加というところの1つで、図書館がある。高齢者が日常的に外出する機会が減るという中で、図書館も地域によってはかなり遠い。これは検討を加えていただきたい。3件となっているが、他の日常的に使うような施設よりも重い数字だと思うので、ぜひ検討していただけたらと思う。

【事務局】

同じく停留所の増設ということで、ご意見を賜った。こちらについても運行事業者、交通事業者と協議し、可能な限りの対応とはなるが、検討していきたい。

【委員】

このアンケートでこの数字が出たということはわかるが、どう生かして住民要望にどう応えるか、具体的な進め方について伺いたい。

【事務局】

今回は、運行の評価や改善事項を明らかにするためというところで、アンケートをさせていただいた。利用者が増えてきたというところで、「使われている」という評価にも活用していきたいと考えている。この後、運行方針を議題に挙げさせていただいたが、その中の効果検証にも活用している。その中で、こうした停留場の追加要望などの改善点についてご質問させていただき、反映していければと考えている。

【委員】

モノレールが延伸するわけなので、それとのリンクを我々も利用したい。我々が電車を使う時に、時間でなくて、乗り換え回数を気にする。高齢者になると、階段を登ったり降りたりするのが非常にきつくなるので、乗り換え回数をできるだけ少なくして、街の発展に公共交通をうまく利用したいという気持ちなので、ぜひその辺りを今後とも課題として考えていただきたい。

【会長】

他にはいかがだろうか。

【副会長】

会員が増えたのは分かるのだが、回収率は昨年度と比べて上がっているという理解でよいだろうか。それから 30 ページの追加要望があるが、これを見ると、入間市駅など、要は圏域から離れた運行できない範囲まで入っているが、これはアンケートとしてはあくまで要望としてすべて伺っているという理解でよいだろうか。

【事務局】

アンケートの回収率だが、昨年度も同様の調査を実施し、80%程度（78.8%）だった。今年度は約 65%というところで、若干は下がっている。おそらく昨年度登録されていた方は、特に関心が高く、行政の発信についても熱心に追いかけているような方が多く、そういった面ではいろんな方に浸透したというところで、若干下がってきたのかなと理解している。

【副会長】

経年変化を載せていた方が、去年より下がったのか、などわかるので可能であればお願いしたい。

【事務局】

追加要望については、どういった要望があるかというところを把握したいという意図で質問させていただいたものなので、実際にそれが実現可能かというところはすぐ答えられるものではないというところでご理解いただければと思う。

(3) 瑞穂町デマンド交通の今後の運行方針について

- ・事務局より、令和 6 年度に設定した運行評価基準に基づく瑞穂町デマンド交通の実証実験運行の評価と、それを踏まえ、実証実験が終了する 10 月以降、本格運行に移行することについて提起された。

【会長】

補足させていただくと、今の説明は満足度、外出頻度、収支率、こういった実績を含めての説明だった。これに加えて、これから軌道交通が入ってくるところは、他の自治体にはない背景にある状況である。このようなことを鑑みまして、10 月以降、本格運行に移行させていただきたいとご提案した。こちらについて、ご意見・ご質問はないだろうか。

【委員】

デマンド交通は、今のところ私はそんなに利用頻度は高くないが、今後に向けては絶対必要なものと考えており、あれば絶対乗るだろうという将来の展望を持っている。モノレールが開通するまで、その先も、ぜひデマンド交通は 1 台、2 台、3 台増やしていただき、高齢者の足として活用させていただき

たいと強く求める。

【委員】

33 ページの一番下に「認知拡大、利用促進」とある。やはり一番大きいのは、デマンドという呼称が、なかなか地域住民に理解されておらず、浸透していないと感じている。今日は横川観光さんがいるので、あきる野市では同じようなデマンドを使っているが、そういった時に利用促進や、知名度・認知度の向上を図っているのか、情報提供をしているのか、参考に伺いたい。

【委員】

あきる野市では、瑞穂町と同じようなことをやっていると思う。やはり認知されるまでは結構時間がかかり、ご利用されると便利だからと徐々に広がってきて、今は1台では足りなくなって、2台という方向になっている。一定の時間がかかるのかなと感じている。名前は同じように「チョイソコあきる野」でやっている。

【委員】

では我が町では、認知、利用の促進の方向性として、どのようなことを考えているか、という具体的な案があれば教えてほしい。

【事務局】

現在、交通政策モノレール推進課では、広報、ホームページ、チラシの作成、SNS の発信等はさせていただいている。あとは「こういうふうにご利用するんですよ」というような紹介動画も作成して公開をしている。最近では、町内会の回覧板でチラシを配り、町内の中にある掲示板にもポスターを貼るということを5月に実施した。それ以降、肌感ではあるが、登録者数が増えている感覚があるので、こういった地道な活動は、継続してやっていきたい。あとは、出前講座という形で、いろんなサロンに出向いて、その参加者に直接説明をさせていただき、そこで登録してみたいという方がいらっしゃれば、その場で登録していただいてというような説明会のような形も取らせていただいている。こういったことを継続して情報発信していきたいと考えている。

また7月号の広報で、雨の日や暑い日に街の公共交通を利用してみませんかという特集を、開いてすぐのページに掲載しているのでご覧いただければと思う。

【委員】

あきる野市で、1日だけだと思うが、無料で運行した。会員になっているが、まだ利用していないというような人も一定数いるので、そこを伸ばそうということでやらせていただいた。

【委員】

本格運行となれば嬉しい。実証実験運行と本格運行の違い、10月から本格運行であれば、これをどうやって住民サイドにPRしていくべきか。本格運行になったからこういうことができますとか、実証実験運行とどこが違うのか、まず住民サイドでは理解が非常に難しい。今までやっていた実証実験運行とどこが違うのかということになるが、これをどうやって理解していただくのか、その辺りの進め方を願う。

【事務局】

実証実験運行と本格運行の違いだが、運送事業形態というところでは、正直あまり変わりはない。今まで実証実験運行をしていた時は、まだ本当に続けていくかどうかを町としてまだ決めきれない状況ということもあった。アンケートで効果検証もさせていただいた中で、今回運行した期間で続けていけるだろうという判断で、期限を設けず続けていく、安心して皆さんの移動の足として使ってもらえるようになる、ということかなと思う。そうしたところをこれからもずっとやっていきますというところを、広報する中では意識していければと考えている。

【会長】

本格運行になったとしても、未来永劫というものではないので、利用者が少なければ継続は難しくな

る。このため、これから先もたくさん利用してください、という呼びかけ、利用促進は継続して実施するよう担当にも言っていくのでよろしくお願いします。他にはいかがだろうか。

【委員】

健康体操やセラバンド教室、あとはサークルの集まりなど、そういうところに高齢者の方が大勢集まっているので、コミュニティセンターの情報をいただくということもすごく大切じゃないかなと思う。いつこういうことをやっています、という情報は簡単に手に入るので、そういうものを利用して、どんどん広報していくことが大切だと思う。

【事務局】

今おっしゃったとおり、コミュニティセンターで行っている活動のサークルや、生涯学習のサークル等もあるので、こちらで情報収集、声がけをするなど、地道な活動はしていきたいと思う。

【会長】

それでは冒頭に事務局から説明あったが、本格運行への移行に関して、ご異議がないだろうか。

【委員一同】

異議なし。

【事務局】

異議なしと認める。それでは瑞穂町デマンド交通については、10月以降本格運行に移行する。

(4) 自動運転移動サービス実装事業の効果検証について

- ・事務局より、「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）」の交付に伴う自動運転移動サービス実装事業の効果検証について、説明を行った。

【会長】

本件について、ご意見・ご質問はないだろうか。

【副会長】

なかなか理解しづらいのが、事業開始前の交通事故が71件で、令和7年度が121件と1.7倍になっている。これは何か特殊な例があったのか。異常値ではないかなと思うが、ここまでなってしまった原因はあるのか。

【事務局】

開始前が令和6年度で、6年度から7年度の実績で、これだけ増えた理由というのは、特別大きな事象があったということは聞いていない状況で、どうして増えたのかというところが、部局としても把握できていない。

【副会長】

逆に言うと71件がおかしかったのかもしれず、例えばいつも100件ぐらいのところ、令和6年度で一気に下がり、また元に戻ったなど、経年変化のグラフを作らないとわからない。ここの2時点だけで見てしまうと恐ろしい数字である、特殊事例なのかどうかというのを調べておいてほしい。

【事務局】

いただいた内容を踏まえて、効果検証の結果を修正し、国に出させていただければと思う。

【委員】

数字についてのこだわりというか、③の自動車保有台数がマイナス50台の目標だったというところ、免許返納にかかって車が必要なくなれば自然に減少するので、コミュニティバスとの因果関係の目

標値を立てるとというのは少し難しいのかなと思う。ダメと言うわけではないのだが、これを目標値にするというのは難しいのではないかなと思う。

【事務局】

こちらの自動車保有台数をなぜ入れたかというところから説明申し上げると、自動運転を導入して、公共交通に乗ってもらう方を増やしたい。それによって自家用車に依存する方を減らしたい。そういったところから、KPI として設定をさせていただいた。瑞穂町が運行するコミュニティバスの自動運転だけに関わるものではないが、自動運転を実装して町に定着させることによって、町の自動車保有台数を減らすという目標なので、数字としては現状の数字を入れ、目標値を立てた。入れなければならないということではないが、町としては、保有台数を減らしたいという目標があり、この KPI の設定をさせていただいた。

【委員】

異論があるわけではないが、こういう目標を立てたら、何%という数字が必ず出てくるので、難しいのではないかなと思っています。

【副会長】

〇〇委員がおっしゃる通り、本当は保有台数の評価ではないはずなので、保有台数が減っていても、車の移動回数が増えれば、公共交通を使っていないと同じになってしまう。一方で、どのくらい車で移動しているかというのは毎年わかるものではないので、データの制約でそれをせざるを得なかったということだろう。2028 年に東京都市圏パーソントリップ調査を実施するので、それを踏まえながら、どれくらい回数が減っているか見てもいいのかなと思う。ただ直近ではこれしか出ないのは仕方ないかなと思う。

【会長】

副会長がおっしゃったように、数値目標を立てるときに、効果よりも、数字が公表されているものは何か、という視点から目標を選んでしまうところはあるので、こうした設定につながっていると思う。その点については、今後どういったものがあるのかというのを考えたい。他にはよろしいだろうか。特にないようなので、この件については、効果検証の結果を踏まえて、引き続き自動運転移動サービス実装事業に取り組んでいきたい。

その他

【事務局】

資料の 37 ページを見てほしい。今後のスケジュールである。住民との意見交換会を年に 4 回程度実施予定である。令和 8 年 11 月頃に、令和 8 年度第 2 回会議の開催を予定している。令和 9 年 1 月頃、コミュニティバス利用者アンケートを実施予定である。令和 9 年 2 月頃、令和 8 年度第 3 回会議の実施を予定している。事務局からは以上である。

【会長】

皆さん、よろしいだろうか。以上をもって、本日の議事は終了した。これをもって、令和 8 年度第 1 回瑞穂町地域公共交通会議を終了する。なお次回についてはただいま説明があったが、11 月頃を予定しているので、よろしくお願いします。

以上